

音楽学習指導案

日 時 平成21年11月17日(火) 5校時

学 級 紫波町立紫波第一中学校

2年 2組 37名

場 所 第2音楽室

授業者 赤塚 温子

1 題材 音楽の形

教材 主は冷たい土の中に (フォスター) エリーゼのために (ベートーヴェン)
きらきら星の主題による変奏曲 (モーツァルト)
フーガ ト短調 (バッハ) ほか

2 題材について

(1) 教材について

音楽の形とは、楽曲の形式(楽式)のことである。中学校第2学年及び第3学年の鑑賞の活動について、指導要領には「ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」とある。本題材は、歌唱教材として、または器楽教材としてアルトリコーダーで学習した曲がどのような構造を持っているか、また親しみのある器楽曲などを改めて取り上げ、どのような構造を持っているかなど、確認、発見させることで、構造を理解して聴くことの価値を味わわせたい。バッハ作曲『フーガ ト短調』の鑑賞を通して、主題と応答、四声部が追いかけるように繰り返し出てくる様子をじっくり聴かせ、和声音楽とのちがいや、多声音楽の魅力にふれさせたい。

(2) 生徒について

これまで、生徒は1年生の時にヴィヴァルディ作曲の「春」では、旋律や音色などの変化をイメージを持って聴いたり、シューベルト作曲の「魔王」では、詩(歌詞)と音楽が密接に関わり、物語に合った表現を生み出していることを学んできた。

今回取り上げる「音楽の形」については、ほとんど学習しておらず、二部形式についても昨年度は数回ふれたのみであるから、再度学習する必要がある。

この学級の生徒は、おおむね意欲的に授業に取り組むが、音楽を聴いて感想を発表するといった活動に慣れていないため、クイズ形式で発問をした後に、聴いた感想を言わせるなど、発問の工夫をし、抵抗感を持たせないよう配慮し、聴き取る力を向上させたい。

(3) 研究に関わって

本校音楽科では生徒に育てたい「表現力」を以下のようにとらえている。

- ① 「表現したくなる状況」に達した想いや根拠(感情・感覚・イメージ・記憶・情動)に基づく、音を媒介とした一人一人の生徒のほとぼしる気持ちの表出。
- ② 自分の感じた音楽のよさや想いを、他者と交流・共有する上で必要な最低限の言語力を持っていること。

これらのものを「表現力」ととらえた時、今回取り上げた『音楽の形』の学習においては、慣れ親しんだ曲を用いて、曲の冒頭である動機部分を含むaが繰り返されたり、変化したりすること、主題(テーマ)の旋律がどのように繰り返され、変化、発展していくかをじっくり聴き、構造についてわかったことを表に記入したり、受けた印象を文章にし、互いに交流する場を設けたい。基本的には教師主導であっても、生徒が興味を持ち、「わかった、聴けた」という思いを抱ける授業にしたい。

3 題材の目標

- (1) 音楽の形式について理解しようと、演奏や鑑賞に意欲的に取り組む。(関心・意欲・態度)
- (2) 主題を認識し、反復、変化している様子を聴き取ることが出来る。(表現の技能)
- (3) 『フーガ ト短調』は、構造を理解してその曲のよさを味わうことができる(鑑賞の能力)

4 題材の指導計画・評価計画(4時間扱い)

時間	学習課題・学習内容	音楽への関心・意欲・態度	表現の技能	鑑賞の能力	評価方法
1	既習の歌唱教材の復習を通して、唱歌形式について確認する。(二部形式、三部形式)	歌唱教材の復習に意欲的に取り組み、唱歌形式について理解しようとしている	歌唱教材を正しく歌い、唱歌形式について理解することができる	a a' b b' など旋律を聴き、比較することができる	観察 演奏 学習プリント 生徒の発言内容
2	器楽曲を聴き、複合三部形式・ロンド形式・変奏曲について、学習する。	主題の旋律を認識し、反復・変化の様子を聴き取ろうとする	主題の旋律を認識し、反復・変化の様子を表にまとめることが出来る	主題の旋律を認識し、変化の様子を聴き取ることができる	観察評価 学習プリント 生徒の発言内容
3 本時	輪唱・カノン・フーガのしくみを探り、主題(応答)がどのように繰り返され、発展していくかを聴く。	主題と応答の旋律が、どのように繰り返され、発展していくか、聴き取って、表にまとめようとする意欲的である	主題と応答を聴き分け、繰り返され発展していく様子を表にまとめることができる	主題と応答を聴き分け、繰り返され、発展していく様子を聴き取ることができる	観察 学習プリント 生徒の発言内容

5 本時について

(1) 目標

主題(応答も含む)が繰り返され、発展していく様子を聴き取ることができる

(2) 本時の構想

本時は、それまで学んだ形式などを、再確認し、主題を聴くことを意識しながら、さらに発展した形式として「フーガ」を聴き、主題が繰り返される面白さを感じ取らせたい。

□聴き取る力を高めるために

- ・リコーダー曲や歌曲の形式のちがいを認識できるのか、実際に聴き、それが判断できるか、確かめる場を設定する。
- ・フーガの主題を示し、何回出てくるか、数えさせる。

□自分の考えを明確にするために

前時に取り組んだ器楽曲の形式をさぐる活動を発展させ、どんな構造であるかをプリントにまとめる。

□表現したいことを確かに伝達するために

フーガの主題と応答のちがいと、どのように続いていくかを予想させ、プリントにまとめる。

(3) 本時の展開

	学習項目	学習活動	時間	指導上の留意点
導 入	1 前時の想起 2 課題の設定	(1)前時までの学習内容を確認する。 歌曲・リコーダー曲から唱歌形式 一部形式・二部形式・三部形式など 器楽曲の形式 (3) 器楽曲の形式を整理する。 前時取り組んだ内容を確認し、何形式か、 理解する。 ・『剣の舞』 複合三部形式 ・『エリーゼのために』 ロンド形式 ・『きらきら星の主題による変奏曲』 …変奏曲形式	10分	・授業の雰囲気づくり ・前時までの学習の想起。 □「聴き取る力」を高める手 立て ☆挙手・指名による発表 紙板書(カード)で確認
音楽の形を探ろう～Part 3				
展 開	3 学習課題の追求	(1)『フーガ』の部分を含む曲をいくつか 聴き、気づいたことを発表する。 「聴いたことがある」 「旋律が繰り返される」 ⇒身近なもので輪唱があることに気づ く。輪唱を実際に歌ってみる。 ⇒「追いかける面白さ」に気づく (2)『フーガ』の主題を示し、そのフーガ の(ある部分)で主題が出てくる回数を 数え、聴き取れるか、確かめる。 (3)バッハの『フーガ ト短調』を聴く。 ①主題を聴く ・演奏している楽器名は。どんな感じが するか。また、この後に続く旋律を予想 させる。 ②主題と応答を聴く ・主題と応答の違いは何か。 ③曲を通して聴き、感想を発表する。	15分 5分 15分	□「自分の考えを明確にする 力」を高める手立て ★学習プリント ★プリントの答え合わせ ☆巡視により、抵抗なく取り 組めるような支援を行い、生 徒間でも教え合いをさせる。 □「確かに伝達する力」を高 める手立て ★学習プリント ★意見の交流 ☆板書で、全員が目で見えてわ かるようにする。 ☆挙手、指名による発表
終 結	4 本時のまとめ 5 次時の予告	・音楽の形式を復習する。 ・授業の感想を発表する。 【予想される反応】音楽にはいろいろ形 式があることがわかったので、これから 聴いたり歌ったりする時にも考えてみた い。 次時の授業内容を知る。	5分	・挙手または指名2名程度